

第1学年1組 音楽科学習指導案

1 題材 「箏や箏曲の特徴を感じ取って、その魅力を味わおう」

2 指導観

- 箏曲「六段の調」は、江戸時代前期に活躍した八橋検校の作と伝えられており、6つの段（部分）から構成されている。箏の音色や余韻の変化を生み出す奏法、平調子（都節音階）による旋律など、箏や箏曲の特徴を感じ取ることができる。また、速度の変化から「序破急」を理解することで、箏曲の特徴や雰囲気を感じ取ることができる。

今回使用する「さくらさくら」は、今では日本を代表する曲として、世界的にも広く知られている曲である。また、きれいな音で響きやすい高音部の弦を主に用いた編曲になっており、右手は親指のみで弾くことができ、左手の奏法として「弱押し」が1か所だけある。

本単元では、箏の基本的な奏法を習得した後、右手の奏法である「合せ爪」「スクイ爪」「流し爪」「ピツィカート」「トレモロ」、左手の奏法である「引き色」「後押し」を習得し、既習の「さくらさくら」の楽譜に奏法を加えてアレンジし、演奏できるようにする。また、箏曲を鑑賞したり、箏を演奏したりする活動を通して、日本の楽器に親しむ心情や伝統音楽を大切にしようとする態度を育てることができる意義ある単元である。

- 本学級の生徒（男子17名 女子19名 計36名）は、明るく落ち着いて授業に取り組むことができている。毎日の合唱活動においては、合唱リーダーを中心に声をかけ合い、10月の文化発表会では素晴らしい合唱を披露し、クラスの団結力が一層高まった。しかし、創作の活動となると、苦手意識が高い生徒が多い。事前の調査では、「創作の活動は好きですか」の質問に対して、「どちらかといえば好き」「好き」と答えた生徒が10名、「どちらかといえば嫌い」「嫌い」と答えた生徒が25名であった。「どちらかといえば好き」「好き」と答えた理由として、「達成感を感じるから」「自分の考えが生かせるから」、一方で「どちらかといえば嫌い」「嫌い」と答えた理由として、「面倒だから」「難しいから」「アイデアが思い浮かばないから」等が挙げられた。また、「和楽器に触れた経験はありますか」の質問に対して、「はい」と答えた生徒が24名（和太鼓が15名、箏が8名、三味線が1名）で、3分の2の生徒が和楽器に触れた経験があることが分かった。
- 本単元の指導にあたっては、箏や箏曲の特徴や雰囲気を感じ取ることができるようにするとともに、箏の基本的な奏法を学習した後、他のいろいろな奏法についても学習し、「さくらさくら」をアレンジして演奏できるようにする。その後、他のグループの演奏についても、工夫した点やアレンジのよさを感じることができるようにする。

・単元の導入段階では、箏や箏曲の特徴や雰囲気を感じ取ることができるようにするために、箏曲「六段の調」から、箏の音色や余韻の変化を生み出す奏法、平調子による旋律、速度の変化（序破急）を知覚・感受する。

・単元の展開段階では、右手の親指の奏法や左手の「弱押し」を習得し、姿勢や構え方に注意しながら「さくらさくら」の基本の演奏を習得する。その後、他のいろいろな奏法についても映像で確認したり教師が実際に演奏する様子を聴いたりしながら確実に習得できるようにする。

・単元のまとめ段階では、既習の「さくらさくら」をアレンジして演奏できるようにするために、どのようなイメージにしたいか、そのためにどの奏法が適しているか等をコンセプトマップを活用する場を設定して考える。また、代表グループの演奏を聴き、工夫した点やアレンジのよさを感じることができるようにする。

3 単元目標

- 箏の音色、速度の変化（序破急）、平調子、奏法による音高や余韻の変化を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取ることができる。 (知識・技能)
- 曲に対する自分のイメージを膨らませたり他者のイメージに共感したりして、音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら、どのように演奏するか思いや意図をもつことができる。また、工夫点やよさを味わって聴くことができる。 (思考力、判断力、表現力等)
- 箏や箏曲の特徴（楽器の構造や奏法、音色や響き、よさ）に関心をもち、基礎的及び応用的な奏法で演奏する学習に主体的・協働的に取り組もうとしている。 (学びに向かう力、人間性等)

4 単元指導計画（全5時間）

知識及び技能…〔知〕 思考力、判断力、表現力等…〔思〕 学びに向かう力、人間性等…〔学〕

次	時	学習活動・学習内容	ねらいと具体的な支援	評価の観点（方法）
一	1	<p>1 「六段の調」から、箏や箏曲の特徴を感じ取る。</p> <p>(1) 初段、三段、五段を聴き比べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音色、速度、曲想の変化 <p>(2) 平調子、奏法による音高や余韻の変化と曲想とのかかわりを感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平調子による旋律 ・音色や余韻の変化を生み出す奏法 	<p>箏の音色や余韻の変化を生み出す奏法などを知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じ取ることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・比較しやすいように、部分的に聴き比べる。 ・音色や奏法などについて気付いたことや感じたことを意見交流する。 ・音高や余韻の変化の奏法である「引き色」「後押し」を教師が実際に演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・箏の音色や奏法などを知覚し、箏や箏曲の特徴を感じ取ることができる。 <p>〔知〕：（観察、ワークシート）</p>
二	2	<p>2 右手の親指の奏法や左手の「弱押し」を習得し、姿勢や構え方に注意しながら「さくらさくら」を演奏する。その後、他の色々な奏法についても習得する。</p> <p>(1) 右手・左手の基本的な奏法を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・右手の親指の奏法 ・左手の「弱押し」 <p>(2) 右手・左手の奏法を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・右手「合せ爪」「スクイ爪」「流し爪」「ピツィカート」「トレモロ」 ・左手「引き色」「後押し」 	<p>箏の特徴をとらえ、基礎的な奏法を身に付けて演奏できるようにする。その後、他のいろいろな奏法についても習得できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スムーズに授業に入るようにするために、あらかじめ教師が平調子に調弦しておく。 ・演奏のイメージを持たせるために、教師が「さくらさくら」の模範演奏をする。 ・映像を提示しながら、姿勢や構え方、爪のはめ方を学習する。 ・右手で弾いたあとは次の糸に当てて止め、そのまま続けて次の糸を弾くように注意させる。 ・どの糸も同じ響きで弾けるよう、楽器の傾斜に合わせて爪を当てる角度を調整させる（遠くの糸を弾くときは、姿勢を前傾させる）。 ・手前の糸のほうが音が高くなるという感覚を身に付けさせる。 ・「弱押し」は音をよく聴いて、押す位置、強さ、タイミングに注意させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・箏の音色や奏法に関心をもち、基礎的及び応用的な奏法で演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 <p>〔学〕：（観察）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箏の特徴をとらえた音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。 <p>〔思〕：（観察）</p>
三	2	<p>3 「さくらさくら」をアレンジして演奏する。その後、他のグループの演奏を聴き、工夫した点やアレンジのよさを感じる。</p> <p>(1) 楽譜にいろいろな奏法を加えてアレンジする。</p> <p>(2) 代表グループが発表する。</p>	<p>いろいろな奏法を用いて、「さくらさくら」をアレンジして演奏できるようにする。その後、他のグループの演奏を聴き、工夫した点やアレンジのよさを感じることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アレンジのイメージや奏法を考えるために、コンセプトマップを活用する。 ・イメージを持ちにくい生徒のために、参考になるリズム等をいくつか提示しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・箏の特性を生かして、「さくらさくら」をどのようにアレンジして演奏したいのか、思いや意図をもって音楽表現を工夫している。 <p>〔思〕：（観察、ワークシート、演奏）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箏の特性を生かして、「さくらさくら」をどのようにアレンジして演奏しているのか、工夫点やよさを味わって聴いている。 <p>〔思〕：（観察、ワークシート）</p>

5 本時 令和元年11月15日(金) 第5校時 第1音楽室において

(1) 本時の指導観

前時までに、生徒は箏の音色や奏法などを知覚し、基礎的及び応用的な奏法を身に付けており、「さくらさくら」をグループでアレンジし、演奏することができるようになっている。そこで本時は、代表のグループにアレンジしたものを演奏してもらい、工夫した点やアレンジのよさを感じることができるようになりたい。そのために、導入場面では、代表のグループにアレンジしたものを順に演奏してもらい、本時の活動意欲を高める。次に、展開場面では、コンセプトマップを活用して3人程度のグループで工夫した点やそこからイメージしたことなどについて考え、発表する場を設定する。さらに、まとめの場面では、振り返りを行い、箏や創作への関心を更に高める。

(2) 本時の主眼

- ・他のグループの「さくらさくら」のアレンジを聴き、工夫した点やアレンジのよさを感じることができる。

(3) 準備

- ・箏一式(3面)、ワークシート

(4) 展開 (ゴシック…思考ツールの活用場面)

段階	学習活動・学習内容	具体的な支援	評価の観点(方法)
つ か む / さ ぐ る / 深 め る / 見 つ め 直 す	<p>1 本時のねらいや方向性を確認する。</p> <p>グループで、自分たちがアレンジしたものについて振り返ってみよう。どんな工夫をしたのかな。</p> <p>他のグループのアレンジを聴いて、工夫したことやアレンジのよさがわかるかな。</p> <p>めあて</p>	<p>○ 本時の学習につなげるために前時までの学習の振り返りを行う。</p> <p>○ 本時の活動意欲を高めるために、前時で活用したコンセプトマップを配布する。</p>	<p>・箏の特性を生かして、「さくらさくら」をどのようにアレンジして演奏しているのか、工夫点やよさを味わって聴いている。</p> <p>[思]:(観察、ワークシート)</p>
	<p>アレンジの工夫点やよさを感じ取ろう。</p> <p>2 アレンジした演奏を聴き、工夫した点やそこからイメージしたことなどについて考える。</p> <p>(1) 演奏グループは、説明などをせずに演奏する。</p> <p>(2) 各グループで、コンセプトマップにメモを取りながら、工夫点やイメージしたことなどについて考える。</p> <p>3 全体でグループごとに発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンセプトマップを提示しながら工夫点やイメージしたことなどについて発表する。 ・最後に演奏グループが説明し、再度演奏する。 <p>4 本時のまとめと振り返りを行う。</p> <p>(1) 本時のまとめを行う。</p> <p>アレンジした演奏を聴き、箏の特徴や音色・奏法を生かした工夫点やよさを感じることができる。</p> <p>(2) 『思考力・表現力 up のスキル表』を活用し、学習の過程でわかったことやわからなかったことを書き、発表する。</p>	<p>○ 先入観を持たせないようにするために、演奏のみ聴かせる。</p> <p>○ グループ内での交流を深めるために、コンセプトマップを活用する。</p> <p>自己内対話で目指す姿</p> <p>・アレンジの工夫点などについて自分たちで考えたことで、よくわかった。(具体)</p> <p>・もとは同じ曲でも、自分たちのグループとはアレンジの仕方や工夫点に違いがあり、雰囲気の違いの曲になっていた。(比較)</p> <p>○ 自己内対話を促し、考えを広げるために、振り返りシートを記入させ発表させる。</p>	